

中学校 道徳科学習指導案

- 1 主題名 差別や偏見のない社会の実現 内容項目 [C 公正、公平、社会正義]
- 2 ねらい 差別や偏見をなくすためにはどうしたらよいかを考え、話し合うことを通して、道理にかなって正しいことを自ら認識し、それに基づいて適切な行為を主体的に判断し、実践しようとする態度を養う。
教材名 「今も消えない同和問題」(出典 平成29年度埼玉県人権教育実践報告会発表作文集はばたき第41集 埼玉県教育委員会)

3 主題設定の理由

(1) ねらいや指導内容について

本主題は、正義と公正さを重んじ、誰に対しても公平に接し、差別や偏見のない社会の実現に努めることをねらいとしている。公正さとは、分配や手続きの上で公平で偏りがなく、明白で正しいことを意味する。道理にかなって正しいことを自ら認識し、それに基づいて適切な行為を主体的に判断し、実践しようとする意欲や態度をもつことである。そして、公平に接するためには、偏ったものの見方や考え方を避けるよう努めることが大切である。

指導に当たっては、「見て見ぬふりをする」や「避けて通る」という消極的な立場ではなく、不公正な言動を断固として否定するほどのたくましい態度が育つように指導することが大切である。さらに、世の中からあらゆる差別や偏見をなくすように努力し、望ましい社会の理想を掲げて、公平で公正な社会の実現に積極的に努めていけるよう工夫する必要がある。

(2) これまでの学習状況及び生徒の実態について ー略ー

(3) 教材の特質や活用方法について

同和問題は、日本社会の歴史的過程で形づくられた身分差別に由来するもので、同和地区に生まれ育ったということを理由とした不合理な偏見により、交際を避けたり、結婚を取りやめたりするなど、基本的人権の侵害に関わる重大な問題である。

本教材は、県内の中学生が書いた作文で、同和問題に関する啓発映画の視聴をきっかけに、同和問題に対する関心を深め、自分の身に置き換えて考えながら、差別の解消に向けて気持ちを綴った作品である。この作文における問題提起を契機として、心理的差別の一つである結婚に関する差別について、自分の身に置き換えて具体的に考え、差別や偏見をなくすような積極的な態度を身に付けていけるよう話し合いを深めていきたい。

4 人権教育上のねらい(個別の人権課題「同和問題」)

作文を基にした話し合い活動を通して、同和問題に関する心理的差別の解消に向けて、積極的に努めていこうとする態度を育てる。

5 人権教育上の視点

- (1) 心理的差別の解消に向けて、自分のこととして共感的に差別の問題点をとらえようとしている。(価値・態度)
- (2) どうしたら心理的差別をなくしていけるかを具体的に考えることができる。(技能)

6 学習指導過程

◎人権教育上の配慮

	学習活動・主な発問	予想される生徒の反応	・指導上の留意点 ☆評価の視点
導 入	<p>1 江戸時代の身分制度の歴史や仕組みを振り返る。</p> <p>(1) 江戸時代の身分を發表しよう。</p> <p>(2) 差別を受けていた身分を發表しよう。</p> <p>(3) 現在、その差別はどうなったのだろう。</p> <p>(補助発問) なぜ平成にもなってこの法律が制定されたのだろう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・武士 ・百姓 ・町人 ・えた身分 ・ひにん身分 など ・えた身分 ・ひにん身分 	<ul style="list-style-type: none"> ・本時のねらいを踏まえ、歴史的内容に踏み込み過ぎないようにする。 ・歴史的過程で身分差別が形づくられ、それに由来する差別が現在も存在することを確認する。 ・「部落差別解消推進法」(資料)を提示する。
差別や偏見をなくすには、どうすればよいだろうか。			
展 開	<p>2 教材「今も消えない同和問題」の読み聞かせを聞き、話し合う。</p> <p>(1) 人権問題の意識調査の結果を見て、「大きな衝撃を受けた」とは、どのような思いからだろう。</p> <p>(2) 自分が結婚することになった時、結婚相手の出身地によって、自分は結婚を考え直すだろうか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・差別のない世の中になってほしい。 ・出身地を気にしている人がいるとは思わなかった。 ・気にしない。 ・住んでいる場所は関係ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートに思ったことや感じたことを書かせる。 ・学級の実態によっては、「あなた(生徒自身)は、人権問題の意識調査の結果を見てどう思うか」を尋ねる。 ・可否どちらの意見にも、共感的な態度で意見や考えを受け入れる。

<p style="text-align: center;">展 開</p>	<p>(補助発問) 次の人たちに反対された場合、結婚を考え直すだろうか。 ①友達 ②家族</p> <p>(3)自分の周囲の人たちから反対されると、結婚に迷いが生じるのはなぜだろう。</p> <p>(4)その迷いを乗り越えていくためには、どうしたらよいのだろう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・反対されたら、考えるかもしれない。 ・差別する考えは許せない。 ・差別や偏見をなくしたい。 ・悩んでしまう。 ・周囲の人たちから孤立してしまうのが怖い。 ・できれば周囲の人全員から賛同を得て祝福されたい。 ・周囲から反対されて迷いが生じるなら、そもそも本当には愛していないのでないか。 ・出身地とその人の価値は別であり、出身地で人を差別しない。 ・勇気を出して、自分の意志を強くもつ。 ・自分の立場に置き換えて考えるようにする。 ・情報を正しく理解し判断していく。 	<p>◎生徒が自分のこととして現実的に考えられるように、具体的に身近な人間が反対した場合を設定して、生徒の判断を揺さぶる。(価値・態度)</p> <p>・ワークシートに思ったことや感じたことを書かせる。</p> <p>・小グループで、どうしたらよいかを話し合わせる。</p> <p>◎一般論にとどまらず、現実的で具体的に考えるように助言する。(技能)</p> <p>☆友達のを聞きながら、差別や偏見のない社会を実現するにはどうしたらよいかを多面的・多角的に考えている。</p>
<p style="text-align: center;">終 末</p>	<p>3 まとめ</p> <p>これまでの自分を振り返り、今後の生き方について考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の意見や考えをまとめることで、現在の自分の行動や考えを深く 	<ul style="list-style-type: none"> ・書く活動を通して、これまでの自分をじっくり振り返らせる。

終		見つめる。 ・様々な差別を許さない態度をもちたい。	☆自分の経験をもとにしながら、偏見や差別の不当性、差別解消の重要性等について考えている。
末		・何か調べようとする際などに、インターネットなどの情報に惑わされないようにしたい。	・正しい情報を把握し、適切な判断で偏見や差別を許さない意識をもたせる。

7 他の教育活動等との関連

事前指導	・帰りの会で「公正・公平」について、生徒の実態を把握するためのアンケートを実施する。
学級活動	・「人権感覚育成プログラム増補版（学校教育編）」収録のプログラム「新しい大陸に向けた航海」の授業を行い、お互いの考えを尊重する態度を養う。
社会科	・江戸時代の身分制度を学習し、差別の歴史を認識する。
技術・家庭科	・（技術分野）インターネットで情報を入手する場合、間違いや偽情報に注意する必要があるなど、情報モラルの必要性について理解する。
道徳科	・教材名「今も消えない同和問題」を学習する。 ・道理にかなって正しいことを自ら認識し、それに基づいて適切な行為を主体的に判断し、実践しようとする態度を養う。
事後指導	・帰りの会で「私たちの道徳」の160ページを読み、その部分を廊下に掲示する。
家庭との連携	・授業の感想を掲載した道徳通信を発行し、家庭での話題にしてもらう。

8 評価の視点

【物事を多面的・多角的に考えている様子】

- ・課題の解決に向け、様々な視点から公正や公平について考え話し合っている。

【道徳的価値についての理解を自分との関わりで深めている様子】

- ・公正や公平であることの大切さについて自分との関わりで考えている。

9 板書計画

「今も消えない同和問題」

◎私が「大きな衝撃を受けた」とは、どのような思いからだろう。

- ・出身地を気にしている人がいるのは驚きだ。
- ・差別のない世の中になってほしい。

◎自分が結婚することになった時、結婚相手の出身地によって、

- 自分は、結婚を考え直すだろうか。
- ・気にしない

○次の人たちに反対された場合、結婚を考え直すだろうか。

①友達

気にする

困る

気にしない

自分のことだから、友達は関係ない

②家族

気にする

迷う

気にしない

差別をするのは許せない

◎周囲の人たちから反対されると、結婚に迷いが生じるのはなぜだろう。

- ・多くの人から祝福されたい。
- ・周囲の人たちから孤立してしまうのが怖い。

◎乗り越えていくためには、どうしたらよいのだろう。

- ・出身地とその人の価値は別であり、出身地で人を差別しない。
- ・勇気を出して、自分の意志を強くもつ。
- ・自分の立場に置き換えて考えるようにする。
- ・情報を正しく理解し判断していく。

10 資料

部落差別の解消の推進に関する法律（部落差別解消推進法）

第一条 この法律は、現在もなお部落差別が存在するとともに、情報化の進展に伴って部落差別に関する状況の変化が生じていることを踏まえ、全ての国民に基本的人権の享有を保障する日本国憲法の理念にのっとり、部落差別は許されないものであるとの認識の下にこれを解消することが重要な課題であることに鑑み、部落差別の解消に関し、基本理念を定め、並びに国及び地方公共団体の責務を明らかにするとともに、相談体制の充実等について定めることにより、部落差別の解消を推進し、もって部落差別のない社会を実現することを目的とする。

（平成28年12月16日施行）

（全文はP35を参照）

「今も消えない同和問題」

年 組 氏名

- 1 人権問題の意識調査の結果を見て、私が「大きな衝撃を受けた」のは、どのような思いからだろう。

- 2 周囲の人たちから反対されると、結婚に迷いが生じるのはなぜだろう。

- 3 本時の学習を振り返り、今後の生活に生かしていきたいことをまとめよう。

例えば、自分が結婚することになったとき、出身地が原因で相手や相手の家族に反対されたら。出身地が原因で友達が離れてしまったら。出身地が原因で何かを言われたり、嫌がらせをされたり、いじめを受けたりしたら。このようなことがあったら、私は耐えられないだろう。出身地を言うのが嫌になり、怖くなるだろう。いじめは、SNSの何気ない書き込みや、小さな一言ですぐエスカレートし、ヒートアップしてしまう。このようにして、差別は続いていくのだと感じた。これは本当に恐ろしいことであり、いじめてやろうという意識がなくても、人を簡単に深く傷つけてしまうということになる。つまり、悪気がなくても、いじめの加害者になってしまうということだ。私は、いじめは犯罪だと思う。人の心を傷つけるのは、決して許されない罪だと思う。

このような悪循環を生まないためにも、みんなにも是非一度、この問題を真剣に自分に置き換えて考えてみてほしい。忘れてはいけないのは、今も苦しんでいる人がいるということだ。差別は、一人一人がみんな平等だという意識をしつかりもっていないと決してなくならない。果たして自分は、みんな平等だという意識をもって生活できていたのだろうか。正直に言うと、私は、この問題に真剣に向き合うまでは、そこまで強くみんな

平等だという意識をもていなかった。この問題を通して、私は今も続いている差別を完全に解消させることは、決して簡単ではないということを知り、改めて人権の大切さを知った。

全ての人が自分のことのように差別について考え、伝えようという意識をもったとき、差別は完全に解消したといえるだろう。だが本来は、差別がないのは当たり前である。当たり前のこと当たり前にできる世の中は、今から私たちで創っていくべきだ。いつまでも、大人に頼っていてはいけない。

（出典 平成二十九年度埼玉県人権教育実践報告会発表
作文集はばたき第四十一集 埼玉県教育委員会）

※本文中の「人権問題の意識調査」は、平成二十四年度人権に関する県民意識調査（高知県）を指す。

今も消えない同和問題

中 三

私は、「本当の空」という映画を見るまで、人は誰でも平等であると思っていた。しかし、この映画によって、世界には様々な差別があることを知り、衝撃を受けた。その中で、私は、部落差別問題に着目した。部落差別問題とは、江戸時代頃から現代に至るまで根強く残る差別のことだ。昔は、えた身分、ひにん身分という身分があり、職業や婚姻の自由はなかったと言われている。現代では同和問題とも言われ、解決しなければならぬ人権問題である。

その中で私は、二〇一一年度に成人三千人に対して行われた、人権問題の意識調査の「同和地区や同和地区の人ということを意識することがありますか」という項目に注目した。回答の第一位が「気にしたり、意識したりすることはない」五十パーセント、二位が「結婚するとき気にする」三十・三パーセント、三位が「不動産を購入したり貸したりするとき気にする」九・二パーセント、その他が二パーセントであった。この結果を見て、私は大きな衝撃を受けた。全回答のうち、約半数の人が、かつての同和地区に対して何らか

の差別意識を抱いているのである。人々からこのような差別意識が消えない限り、本当に消滅したとは言えないだろう。

さらに、私が一番危険だと思うことは、インターネットが身近になった今、SNSやサイトなどにそのようなことを書き込まれたら、それがずっと残り、いじめに発展する可能性もあるということである。実際に調べてみると、気分の悪くなるようなことが書き込まれたり、数々の実体験も書かれていたりした。なぜ百年以上経っている今でもこのような差別や偏見がなくなるのかと、苛立ちを覚えたのと同時に、とてもやり切れない気持ちになった。これは誰にとっても他人事ではなく、小学生や中学生、高校生が、一番真剣に考えなければならぬ問題だと思う。なぜなら、差別を一刻も早くなくすためには、私たちの世代が差別や偏見をもつことなく生活することが大切だからだ。そして、次世代に「みんな同じで平等なのだ」ということを伝えていくことが、最も重要なことだと思うからだ。私たちの世代が、自分に関係ないと、他人事のように考えていたら、この問題はいつまでも続き、完全に解決することはないだろう。私は、性別や住んでいる地域で差別されたことはないが、今まで様々な体験談を基に、すべてを自分に置き換えて考えてみた。